

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

臨時休校

新型コロナウイルス感染拡大防止ため、明日から臨時休校となります。しかし、感染の広がり状況にもよりますが、3月18日の卒業式と3月24日の修了式・離任式は、規模を縮小して実施したいと現段階では考えています。卒業式は、卒業生とその保護者、職員のみで、式次第等も短縮する予定ですので、ご理解とご協力をお願いいたします。臨時休校に関する連絡等を、本日児童に渡していますのでご確認ください。

インターネットが利用できる環境があれば、国の公的機関等が作成した通称「子供の学び応援サイト」(https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm)もご利用ください。

また、ご家族に新型コロナウイルス感染が疑われる場合の万が一に備え、専門家がまとめたポイントを裏面に掲載していますので、ご参照ください。

校訓の「清い心」について考えたこと

私が、かつて、臨採で特別支援学級の担任をしていた時、脳性まひの影響で言葉がうまく出ない子がいました。放課後、保護者の迎えを待つ間、私は、教室でうとうとしてしまい、ついには、机に頭をもたせかけてしまったので、あわてて起きてその子が居るのを確認したら、その子が優しく私の頭を押さえました。「あー、うー」という言葉しかなかったのですが、「先生、心配せんでよか。どこにも行かんで安全に遊んでおくけん、安心して寝とってよかよ。」と私には聞こえました。その子の純粋な心に触れ、涙がじわっとあふれ出てきました。「清い心」とは、言葉では表現できない心からにじみ出るものかもしれません。

佐世保警察署長からの感謝状

交通事故防止や交通安全への貢献により、2月20日、佐世保警察署長から感謝状と楯をいただきました。より一層、交通安全の意識を高めていきたいと思っています。感謝状は入学式までは会議室前、その後は会議室内、楯は会議室前に展示する予定です。

祇園歴史の旅（その58）「朝鮮戦争と佐世保、軍港再び」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

『軍転法』が成立した直後の1950年（昭和25）6月25日、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）軍が、突然、大韓民国（韓国）に攻撃を仕掛けました。北朝鮮には中華人民共和国（中国）とソビエト連邦（ソ連）が味方し、韓国には、アメリカを中心とする国際連合軍が味方して、激しい戦闘が繰り広げられました。いわゆる、朝鮮戦争（朝鮮動乱）です。戦争が始まると、戦場に近い佐世保には国連軍の司令部が置かれ、港の施設のほとんどをアメリカ軍が使うようになりました。このため、中田市長と市民が目指した平和商港建設は、一時中断されてしまいました。その代わりに、国連軍の修理・補給基地となった佐世保には、軍需物資や修理の注文が殺到しました。いわゆる『特需景気』と呼ばれたもので、この特需景気により、佐世保の街はかつての賑わいを取り戻していきました。戦争によって壊滅した佐世保が、戦争によって立ち直ったとは、本当に皮肉なものです。

朝鮮戦争が終わり、1951年（昭和26）のサンフランシスコ平和条約で日本が独立を果たした後も、日米安全保障条約に基づいて、佐世保にはアメリカ海軍の基地が置かれました。そのため、たびたび原子力潜水艦や航空母艦が寄港し、そのたびに反対運動が起こっています。特に、1968年（昭和43）に原子力空母エンタープライズが寄港したときの反対運動は凄まじく、全国的なニュースにもなりました。その後も反基地運動や返還要求が行われていますが、現在でも、港の施設のほとんどがアメリカ海軍に提供されたままになっています。また、1954年（昭和29）には、新たに発足した海上自衛隊の基地も置かれ、鎮守府跡に佐世保地方総監部が置かれました。平和商港を目指した市民の願いとは裏腹に、佐世保は、再び軍港となってしまったのです。」

次回は、「観光都市を目指して」と題して、西海国立公園の誕生などをご紹介します…。